

応募条件

- 16歳以上の方*、日本語で日常会話ができる方
※2024年4月時点、ただし18歳未満は保護者の同意が必要
- 美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動する意欲のある方
- 「岐阜県美術館からのメッセージ」「館長のメッセージ」を理解し、共感して活動できる方
- 基礎ゼミ全7回に原則としてすべて参加可能な方
(実施予定日) 2024年4月13日(土)、27日(土)、5月11日(土)、25日(土)、6月8日(土)、22日(土)、7月6日(土)
※日にち及び開講回数に変更になる場合がございます
- 2024年8月以降、原則として**月2回以上の活動に参加可能な方**
- インターネットにアクセスでき、パソコンなどのメール送受信やオンラインミーティングツール (Zoom) の使用が可能な方

応募方法

以下①～③の書類を入れた封筒に

「アートコミュニケーター応募書類在中」

と朱記し、郵送してください。

①応募用紙

本紙に添付の書式に、必要事項を記入してください。

②返信用封筒1通

定型封筒(長形3号)に84円切手を貼付の上、宛先欄に応募者の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

- ③課題「アートコミュニケーターに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について」述べてください。**美術館での体験でなくても構いません。**

[書式] A4用紙片面1枚にまとめてください。

記載様式は自由ですが、2枚目以降の記載や、裏面への記載、規格外の用紙の使用は選考対象となりません。

また、ご自身で用意した用紙を使用する際は、必ず氏名を記入してください。

応募書類郵送先

〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐4-1-22

岐阜県美術館 アートコミュニケーター募集担当 宛

※一度提出していただいた応募用紙等の書類は返却いたしません。

※応募者の個人情報は、アートコミュニケーターの選考に関する以外には一切使用しません。

になるには

活動のやくそく

1. アートコミュニケーターの活動は無償です。
2. 交通費、謝礼等の支給はありません。
ただし、ゼミ及び随時開催される研修に無料で参加できます。
3. アートコミュニケーターの登録期間は最長3年間で、年度ごとに更新します。(2024年度の活動は2025年3月まで)。次年度以降は本人と岐阜県美術館が双方合意のうえ登録更新します。

活動場所

岐阜県美術館など

スケジュール

応募受付期間

2023年11月1日(水)～**12月22日(金)**消印有効

1次選考：書類審査

※選考結果は2024年1月中旬に郵送にて応募者全員にお知らせします。

2次選考：面接

2024年2月9日(金)～11(日・祝)のいずれか1日
※所要時間は1時間ほどです。日時は後日連絡します。

選考結果発表

2024年2月下旬
2次選考対象者全員に郵送にてお知らせします。



ウェブサイトでは、今年の活動の様子や、「～ながラー」へのインタビューを掲載しています。よくある質問コーナーなどもご参照ください。
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac/>



岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

2024年度5期



募集人数 25人程度



仕事をしながら、
家事をしながら、
学校に通いながら…
「美を楽しむコミュニティ」
一緒にやってみませんか？

ウェブサイトも
チェック！



岐阜県美術館 アートコミュニケーター 募集!

消印有効

受付開始 2023 11.1(水) > 締め切り 2023 12.22(金)

「～ながラー」
5期募集イベント

2023.11.3(金・祝) / 2023.11.23(木・祝)
会場：岐阜県美術館 詳細は岐阜県美術館ウェブサイトをチェック!

お問い合わせ

岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel: 058-271-1314 Fax: 058-271-1315
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

「～ながラー」の活動を 川のながれにたとえると…

1 応募

家や学校、職場とは違う、
第三の場である美術館。
さまざまな関心、背景をもつ
多様な人々との出会いが源泉!

2 基礎ゼミ (4~7月、全7回)

※日程および開講回数は変更する場合があります

対話のあるコミュニティづくり
について学ぶゼミです。
アートコミュニケーターの活動について、
基礎的な考え方を仲間たちと共有します。

たとえば、こんな活動!

- ミュージアムの特性を活かした活動とは?
アートコミュニケーターの社会的役割や
社会的処方について学ぶ
- きく力
「～ながラー」のコミュニケーションの基本となる
「きく」ことについて学ぶ
- 会議が変われば社会が変わる
「～ながラー」の活動に欠かせない、ミーティングの
理想的なスタイルや具体的な手法を学ぶ



ミュージアムの特性を活かした活動とは?



きく力



会議が変われば社会が変わる

3 実践ゼミ (8月~不定期)

実践ゼミ (8月~不定期)

多様な来館者に寄り添う
アートコミュニケーターの在り方を
考えるゼミです。美術館の活動で
大切なことや、アートと人、
社会との関わり方をテーマに、
さらなる実践的な学びを深めます。

たとえば、こんな活動!

- 作品鑑賞と「～ながラー」
作品を鑑賞するとはどういうこと?
岐阜県美術館の所蔵品について深く味わい、
鑑賞を通して来館者との深いコミュニケーション
の可能性を探ります。
- アクセスと「～ながラー」
一人一人に合わせたサポートは何だろう?
自分たちにできることって何だろう?
多様な人と関わり実践しながら考えていきます。



作品鑑賞と「～ながラー」



アクセスと「～ながラー」

4 この舟のろう方式

この舟のろう方式

1つのアイデア (=舟) に3人が集まったら、
オリジナルの活動に向けて漕ぎだそう。
「～ながラー」の活動の基本は、
自主的な話し合いと実践です。
ミーティングや試行錯誤をかさね、
美術館を舞台にしたオリジナルの企画を
つくっていきます。

たとえば、こんな「舟」

- 泉の小舟。
来館者をアトリエに導く
サインオブジェ「遊道」の制作
- Let's おしゃべり鑑賞丸
来館者の年齢に合わせた
「おしゃべり・鑑賞会」の開催
- こくまのこく丸
館内で絵本の読み聞かせ
+ 館内ミニツアーを開催



泉の小舟。



各チームには、舟をイメージして
「～丸」などの愛称をつけます。



Let's おしゃべり鑑賞丸



こくまのこく丸

5 アートと多様なひと・ テーマを結び、 地域をうるおす

アートと多様なひと・ テーマを結び、 地域をうるおす

アーティストや、美術館にまつわる人、
岐阜にゆかりのある人々との出会い、
創造とコミュニケーションの場をつくります。
作品や人をつなぎながら、
社会への活動を広がっていきます。

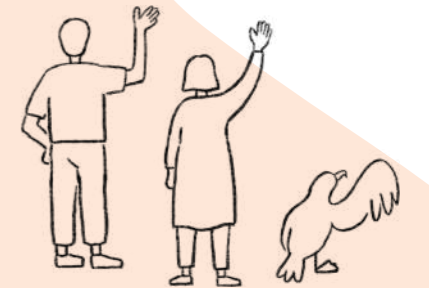
- こよみのよぶね
地域アートプロジェクトに参加し、
アートコミュニケーターならではの
関わり方を模索する
- 明後日朝顔プロジェクト
取り組み方や発信の仕方を試したり、
他の参加地域と交流しながら、思いを巡らせる活動
- 3年目マイポート
任期満了を迎える年度に実施する
「～ながラー」独自の自主プロジェクト



こよみのよぶね



明後日朝顔プロジェクト



6 美術館から、 それぞれの活動へ出港!

美術館から、 それぞれの活動へ出港!

「～ながラー」の任期は3年間。
任期満了後は社会という広い海で、
それぞれの創造力を発揮していきます。

『ふりかえりながラー 2022』

【2022（令和4）年度活動報告】

アートコミュニケーション事業の活動をピックアップして報告します！



基礎ゼミ

グループワークの成果発表をする「〜ながラー」

『ミュージアムの特性を活かした活動とは？』（2022年8月6日開催）

ミュージアムが再定義される今、アートコミュニケーターとして美術館と社会をどのようにつなげられるか。アートコミュニケーターの社会的役割や近年注目されつつある社会的処方、これからの活動の進め方について、東京藝術大学 社会連携センター特任教授の伊藤達矢さんにレクチャーしていただきました。今回のゼミでは、居合わせた人々とできることに取り組む「居合わせた人が全て方式」を学んだ後に、まち（街・町）と美術館をつなげる取り組みを考えるグループワークに取り組みました。3人1組で各々の「好きなこと」「得意なこと」「すべきこと」について共有後、それぞれのキーワードを組み合わせアイデアを練る作業や各グループとの意見交流を経て、アイデアの精度を高めるプロセスを体験することができました。

[詳細はこちら!]

https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac-archive/r4_kisozemitokubetuhen/



実践ゼミ

グループワークの成果発表をする「〜ながラー」

『作品鑑賞と「〜ながラー」』（2022年8月～12月開催、全5回）

基礎ゼミで学んだアートコミュニケーターとしての心構えを意識しつつ、美術館を訪れる多様な来館者に寄り添い、作品鑑賞を楽しんでもらうための手法を、実践を交えながら学ぶゼミ。今回は山口情報芸術センター[YCAM]の会田大也さんに「作品を鑑賞すること」についてレクチャーを受けた後、AC運営スタッフによる対話型鑑賞法「VTS (Visual Thinking Strategies)」の座学やファシリテーター実践演習を経て、一般参加者を招いての「じっくりたっぷり鑑賞会」を開催しました。最終回では再び会田さんをお招きし、実践ゼミ各回の活動をふりかえりつつ「作品を前にして起こっていること」について分析・考察する場となりました。

[詳細はこちら!]

https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac-archive/2022practice01_archive/



この舟のろう方式

彫刻家・林武史(写真左)さんと「〜ながラー」

『月見台丸「林武史さんと月見台を楽しむ会」』（2022年11月27日開催）

岐阜県美術館の野外彫刻《立つ人―月見台》に心動かされた「〜ながラー」13名による、構想・リサーチ・準備期間約1年に及ぶ一大プロジェクト!当日集まった参加者20名とともに、彫刻家 林武史さんの作品《立つ人―月見台》や《月に吠える》のそばで対話型の鑑賞をおこない、庭園の小川のほとりで林さんとトークタイム。林さんは「こんなにたくさんの方が《立つ人―月見台》に乗った光景を見たことがなかった。一列に座るのもいいね。」とおっしゃっていました。発案者で「〜ながラー」1期の平岡靖教さんは「アートコミュニケーターとして、作品と人をつなぐ役割ができたように感じました。」と感慨深そうでした。

[詳細はこちら!]

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac-archive/2022tsukimidaimaru/>

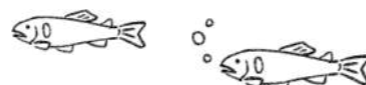


任期満了

「湊カラー」他式典参加者集合写真

『湊カラー出港式』（2023年3月19日開催）

3年間の任期を満了する「〜ながラー」1期を「湊カラー」に任命する式典を開催しました。「湊カラー」とは、3年間の“美を楽しむ体験”を生かしながら、任期満了後の日常社会の中でアートを通して多様な人々と交流することを期待し、日比野彦館長が命名したアートコミュニケーターのことで。出港式では、日比野館長による「湊カラー任命状」(メンバー氏名は館長直筆!)授与後、記念品贈呈を経て、最後は「〜ながラー」Band(「〜ながラー」2期・3期有志)による演奏で1期の門出をお祝いしました。「〜ながラー」1期は、コロナ禍の2020年4月から活動をスタートし、オンラインと対面を使い分けながら多彩な活動を展開しました。今後は「湊カラー」として、それぞれのライフスタイルを大切にしながら、社会でアートと人をつなぐ担い手になることを、スタッフ共々期待しております!



アートコミュニケーター

「ながラー」 とは?

アートコミュニケーター「〜ながラー」とは、アートを通じて生まれるコミュニケーションを大切に、岐阜県に生きる人やテーマと結びつきながら、美術館を拠点に人と人、人と作品、人と文化をつないでいく存在です。多様なバックグラウンドを持つ「〜ながラー」が、新たな価値観や関係を社会にひろげていきます。愛称「〜ながラー」には、「〜しながら」と、岐阜県に流れる「長良」川の2つの意味が込められています。

岐阜県美術館からのメッセージ

岐阜県美術館の基本理念は

「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」です。美術館を、作品を鑑賞するだけでなく、地域性を発信し人々の交流を通して、多彩なかたちでアートを体験する場として、美の楽しみ方を生み出していきます。

館長のメッセージ

自分のペースでちゃんと関係性をとりながら、自分のこととして引き受けながら、相手のことを考えながら。

コミュニケーションというのは当然一人ではできない。相手があつてのこと。二人の間で「ながラー」が生まれる。

一人よがりにならずに、もう一つの存在として、対話しながら、関係性をとりながら。

岐阜県美術館長 日比野 克彦

WINO.



岐阜県美術館 THE MUSEUM OF FINE ARTS, Gifu

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel: 058-271-1314 Fax: 058-271-1315
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>



「〜ながラー」の活動公開中!

https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac/nagarer_channel/

「〜ながラー」が《この舟のろう方式》で企画・制作した、オンラインで楽しめるコンテンツを公開中!美術館に対する思いや工夫が込められています。

ぜひご覧ください!